

第3回文化芸術に関する意見交換会

- 1 日時 令和2年1月15日(水) 14時00分～16時00分
- 2 会場 さいたま市消防庁舎3階 関係課会議室
- 3 出席者 (1) 委員(12人)
(正副委員長以外は五十音順) 村上和夫委員長、近藤一幸副委員長、
あらい太朗委員、新井久夫委員、大沢英子委員、
久米尚子委員、陣出勇人委員、茅野憲一委員、
坪内間委員、長井武志委員、中澤政人委員、
畠山メグミ委員
(2) 事務局(7人)
スポーツ文化局 蓬田局長、大西理事
文化振興課 野口課長、茂庭課長補佐
小野瀬係長、飯島主任、田島主事
(3) 欠席者(2人)
竹山浩、森口達治
- 4 公開・非公開の別 公開
- 5 傍聴人の数 1人
- 6 内容 (1) 開会
(2) 議題
①アンケート調査結果の報告
②次期さいたま市文化芸術都市創造計画
中間まとめ(案)の方向性について
(3) その他
(4) 閉会

会 議 記 録

<議題(1) アンケート調査結果の報告>

事務局 資料「1 アンケート調査報告」を説明

委員長 ありがとうございます。事務局の説明について御意見、御質問等あれば御発言ください。

まず「A. さいたま市市民意識調査」に関して御意見ありますでしょうか。さいたま市のイメージ「文化的なまち・芸術的なまち」は、14.1%と少し落ちてしまいました。それから、「さいたま市内にある施設、名所、特産品、イベントなどのうち知っているもの」は、文化芸術に関するものが上位に登場しています。コンサートやイベントは、さいたま新都心で大きなものが沢山開催されていますが、意外に市民に認知されていないですね。

「B. 文化芸術活動団体調査」、「C. 文化芸術に関するサポーター調査」については御意見ございますか。

委員 「C. 文化芸術に関するサポーター調査」の、「3. さいたま市における文化芸術都市創造に向けて必要な取組」において、「文化芸術について広く発信すべきものは盆栽が最も多い」とあります。確かにアンケート結果上はそうで、それを発信していくというのは正しいと思いますが、これはサンプルのうち大宮盆栽美術館のサポーターの比率も影響するのではないかと思います。参考までに、大宮盆栽美術館のサポーターは何名この中に入っているのでしょうか。サポーターの意見や、Aの市民意識調査の母数にあたるインプットが市民全体のインプットになっていくので、そこを落さずに施策展開されていけばよいと思います。一部の方の意見だけになってしまうのはもったいないと思った次第です。即答いただかなくてもいいですが、そこを意識されていると思ってよいでしょうか。

参考までに、もう一つ教えていただきたいのですが、Aの市民意識調査の「さいたま市のイメージ」という設問で、複数選択可であると注釈が書いてあるかと思いますが、人間はAとBがあると、AとBは別物だと理解することが多く、「コンサートやイベントが多いまち」と「文化芸術のまち」を両方選択してくれたかどうか心配になっています。コンサートやイベントが多いことイコール文化芸術だと思っていない人が多いのではないかと思います。「文化的なまち・芸術のまち」をしっかり定義してあげると、市民のイメージも違ってきます。「交通が便利なまち」というのはわかりやすいで

すが、「文化芸術」というのは抽象度が高いと思います。美術も盆栽も漫画も文化芸術ですが、人によっては「漫画は文化芸術ではない」という人もいます。そうすると、もったいないと思います。具体例を示してあげるだけで、イメージは変わると思います。

事務局

御指摘をいただいたサポーターの内訳は、後ほどご報告します。

それから、調査Aについて、「コンサートやイベントが多いまち」と「文化的なまち・芸術のまち」のように選択肢の内容が重複するようなものもあります。ただこれは、市が毎年定期的実施している調査のため、項目を安易に変更すると過去との比較がしづらいという弊害も出てきます。担当部署には、御意見があったことを伝えます。おそらく担当ではいろいろな御意見を踏まえて、ある一定の期間で見直しをしているかと思っています。

それから、これは後で御説明しようと思っていたのですが、「文化的なまち・芸術のまち」は抽象度が高いということは、審議会委員からも同じような御意見をいただいています。「こういったものをどれだけ感じますか」という聞き方では、単純に質問だけ投げられても何のことだかわからないでしょうから、たとえば具体的な例として漫画やダンスも含むなど、アンケートの際に市民にわかりやすい説明を追記するなど、改善の余地があると考えています。次期計画の目標を設定して、アンケートを行う際には、聞き方、表現の仕方を工夫して、効果を量っていきたいと考えています。

委員長

ありがとうございました。よろしいでしょうか。

委員

はい。

委員長

調査Bの回答者数ですが、今年度は175で前回は246と、だいぶ開いてしまっています。回収率52.4%という点をお含め置きいただいて、ご覧いただければと思います。高齢化してきたということですが、60代が減って70代が増えたということは明らかに高齢化してきたことがわかる数字です。

調査Cは、今ご指摘いただいた点があります。

それでは、次の調査DのWEBアンケートの結果について、御意見はありますか。

委員

「2. ニーズ把握のための調査項目」のQ3において、特に若年層の回答が「参加したい活動がない」「情報を入手しにくい」という見解が書いてありますが、「どんな活動なら参加したいですか？」という質問はあったのでしょうか。

事務局

このアンケートに関しては、自由意見をいただいております。
なお、先ほど御質問のありました調査Cについて、95のサンプルの内訳ですが、さいたま国際芸術祭サポーター22人、S a C L a サポーターズ64人、大宮盆栽美術館ボランティア9人でした。

委員

大宮盆栽美術館の比率が少ないなか、盆栽を発信すべきという回答が多いというのは、すごいですね。ありがとうございます。

委員長

見沼区の方でも岩槻人形をよくご存じなのがすごいですね。
日常の余暇生活という研究領域があり、その中では働き方問題というのがあります。調査Dの「Q3 市内で行われる文化芸術活動に参加する場合の課題」として、「日時の都合が合わない」が42～51歳で36.5%というのは、「参加したい活動がない」という以前に「行けない」という潜在的な要因のある事が窺えますね。果たして「行くこと」が本当に必要なのかどうか。これは私の専門である観光分野の問題なのです。実際に行くよりもガイドブックやネットを活用してきちんと状況を説明してしまう方が、そこへの理解が深まるということもあるのです。そのような知見を踏まえるならば、以前からお住まいの方に加えて、最近越してきた皆さんの中にもさいたま市の各区の事を詳しく知っていると言うこの結果はなかなか面白い都市的な状況の現れと言う気がします。一方で、調査Aでは「買い物などの生活に便利なまち」の次が「交通の利便性の高いまち」という結果があり、それなら別にさいたま市で参加したい活動がなくても、東京に行けばいいと言う認識があるのではないかという認識が窺えるようにも思えます。

これはそのうち議論しなくてはならないと思いますが、我々の市は首都圏の中でどのように文化活動の役割分担をしたらいいのか、そういう機能論にまで発展する可能性もあります。東京と同じものをさいたま市でやるべきなのか、そうした場合、例えば人がたくさん来てしまうからオーバーツーリズムになってしまうのではないかと、というのがあります。ですので、この図(調査DのQ3)は非常に重要な図です。今の指摘と合わせて御記憶いただきたいと思いません。

それから「Q4 さいたま市を代表する文化芸術として、広く発信すべきもの」について、年代別、地域別にどう認知しているかという調査ですが、「茶道・華道・書道」がこんなに低いのかと思います。かなり以前70歳以上の人たちにとって、自分は文化人と他の人に思わせたいと思ったら、茶道をするというのは当たり前の話でした。そういう意味で考えますと、茶道・華道・書道ともにこの数字というのは、それで文化都市と言えるのかという、時代が大きく

変わったと言う気がします。ただ、この項目の数値は、おそらく全国的に見ても決して高くないというのが、私たちの研究の結果でも見られ、今後どうなっていくのか、といった状況です。

それでは他に何か、統計全体から御意見ございますか。

委員

調査Dではようやく漫画に関する事で良い数字も出てきて、なぜか緑区、岩槻区が漫画を広く発信すべきと高い数値が出ています。これの根拠はよくわかりませんが、漫画を選択してくれる人が多くてありがたいです。

調査Aの「さいたま市内にある施設、名所、特産品、イベントなどのうち知っているもの」の21の選択肢の中に「漫画会館」が入っていませんが、これは意図的に外しているのでしょうか。それでありながら解説文では、「盆栽、漫画、人形、鉄道に関わるもので特に認知率が高いのは」とあります。なぜ、選択肢に「漫画会館」が入っていないのでしょうか。

事務局

先ほど申しあげましたように、この調査自体の選択肢を選ぶ過程で、市の中で有名なものは何かという候補を挙げて検討して決めたものと思われます。確かにさいたま市の魅力ある資源と謳っているものの中で、漫画が不足しているように思います。

委員

手前どもの不徳の致すところです。

事務局

補足させていただきます。今の回答は間違いではありませんが、ここでは選択肢の数に限りがあるため、高い数値を得たものは外していくという傾向があります。ですので、すでに高い認知度があるものについてはあえて聞かずに、時代とともに新しい魅力が加わってきていますので、新しいものを入れていくという傾向があります。ただ、漫画会館がどこにあたるのかは、今は手持ちに資料がないので、調べてみます。

委員

希望が少し出てきました。

委員

殿堂入りしている可能性があるということですね。

委員

調査Dでは漫画があったので、「ああ、良かった」と思いました。

委員長

今日のメインは施策の議論ですので、データとして調査報告を観ていただき、次の議題に入っていきたいと思います。

<議題(2)次期さいたま市文化芸術都市創造計画中間まとめ(案)の方向性について>

事務局 資料「2-1 次期計画の施策展開（案）及び成果指標（案）」を説明

委員長 ありがとうございます。①～③は将来像や施策体系など計画の全体像に関する話ですが、④は成果指標の話ですので、先に①～③までの御意見をいただきたいと思います。ぜひ全員の委員からの御意見をいただきたいと思います。

委員 よくわかるのですけれども、よくわかりませんよね。抽象的という感じです。でも、前向きな感じになったのだらうなと思います。主な取組を読んでも、まだ具体的になっていなくて、我々のような本当に現場でやっている人たちの意見を、こういう重点プロジェクトがあることを理由にいろいろ意見を聞いてもらえる場がこれから増えなくてはいけないと思います。そういうことがこれから積み重ねられていく、そのための受付窓口など落としどころがある、ということなのでしょう。そんなに新しいことは書いていないと思っていて、私はさいたまの土着民ですから、ずっとこのような話は聞いています。すごくたくさん意見を言っていて、取り入れていただいていることもたくさんあります。次期計画として多様な施策展開が書かれているので、今後たくさん提案したくなります。

一つだけ言うと、「観光」という言葉が散見されます。以前からさいたま観光大使をやらせていただけていますが、この何年かはほとんど活動依頼がありません。今後、依頼があるのでしょうか。それとも私のほうから「働きます！」と言わないとダメなのでしょう。

もう一つ、この間、さいたま市の賀詞交換会がロイヤルパインズホテル浦和でありまして、大勢の人が集まりました。会場には「さいたま国際芸術祭」の紹介ブースがありましたが、市長や知事といった方々が挨拶の中で「さいたま国際芸術祭」について触れることはなかったように思います。会場の隅でクリアファイルみたいなものを配っていましたが、ほとんどの人が受け取っていません。入口で配ると良かったのではないかと思います。今年開催する芸術祭なので、「肝入りだよ」という気持ちがあってもよいと思います。各界の重要な人たちが集まる場で、誰も芸術祭の「げ」の字も話題にせず、名刺交換だけして帰ったと私は認識しています。観光大使の発言・発表の場でもありませんでしたが、たとえば「こういう芸術祭や漫画も一生懸命宣伝しますから、よろしくお願いします」とすれば、ある意味一網打尽の場ではなかったかと思います。そういうことがものすごく多いです。自分で動かないと、観光大使として働いた気になっていないのが、この何年かです。こういう計画に「観光」という言葉が入るのでしたら、落としどころ

の一つとして、観光大使をもっと活用してもらいたいと思います。重要な場、重要な局面で、偉い人が乾杯する前で話を聞いてくれるような時に、芸術文化の話をしっかりとしてくれないと、「気持ちがないのではないか」と、気持ちのある人たちは思ってしまうと感じました。

委員

委員の話に関連しますが、成人式の会場で一人一人に配られたものがあります。透明な袋に入っています。新成人は約1万3千人で、その約7割がさいたまスーパーアリーナの式典に参加したのだそうです。私は別のところから入手したのですが、受付を済ませた新成人に1つずつ配られました。私がそれを見た時に感じたのは、透明の袋ではなく、せめて芸術祭のデザインの袋であれば、1万人の人が持って帰る時、「このマークはなんだろう」「芸術祭ってなんだろう？」と、そういうアピールになったと思います。式典で市長が新成人に芸術祭の話をしたかどうかは存じ上げませんが、1万人の人がこれを持って歩くというのはすごいことです。クリアファイルを全児童にあげるより宣伝効果が高いことは明らかです。それが行政のどういう連携で行われているのかは存じ上げませんが、機会を逃したのではないかと思います。

委員

さいたま市美術家協会の評議員の立場から皆さんにご報告申し上げます。3月11日から22日まで、さいたま市立うらわ美術館で美術展を開催します。ロイヤルパインズホテル浦和と同じ建物の3階にあり、ぜひこれを機会に美術展を観ていただきたいと思います。掲げましたタイトルは「さいたま国際芸術祭2020 さいたま市の美術家展」です。ありがたいことに、大宮、浦和、岩槻、与野の絵描きが集合して発表するには非常に良い空間です。美術館の天井の高さも非常に広々として、快適な空間になっています。そこに地域の作家の中から、中央展、日展、院展、県展、さいたま市の市展の審査員以上という資格を持った方々が、腕によりをかけた作品を展示します。非常に恵まれた良い施設であり、良い空間でありありがたい機会をいただきましたので、ポスターを市で作ってくださいますが、ぜひ皆さんもPRの御協力をお願いします。なるべく時間を割きまして、こういう機会に御覧いただきたいと願っております。

事務局

委員からお話にありました美術展については、チラシなど広報物の準備をしています。できあがりましたら、メールや郵送で皆様に御案内をさせていただきます。

委員

まだ会議を重ねて計画を練っている段階でございますが、どうぞよろしくお願いいたします。

委員

委員の御意見に刺激されているのですが、本当にやる気があるのか気になります。他の御意見にもありましたが、大事な時にイベントなどを活用しない。市民の関心が無いということは、こちらの働きかけが足りていないのではないかと思います。たとえば、パラリンピックやオリンピックはテレビ、新聞で相当取り上げられていますよね。オリンピックは8月の開催ですが、「さいたま国際芸術祭」は3月にやるわけです。これだけ力を入れて、なぜ伝わっていかないのか。先ほどもありましたように、大事なイベントや大事な広告の場を逃しているのではないかと思います。今からでも遅くはないと思いますが、広報活動や宣伝活動は、1回やったからよいというものではなくて、繰り返しやることも大事だと思います。開催まで残り少ない時間の中で、開催することが噂にもなっていない現状を、どのくらいまで高められるか、勝負どころではないかと思えます。

委員

今回の資料を拝見して、人気が出る、リピーターになってもらうことがポイントではないかと思えます。確かにいろんなイベントが開催されますが、1回こっきりで終わっています。それと、ある特定のところにだけ情報が集中して、なかなか知らない人にまで情報が行き届いていない。さいたま市は特に、新たに越して来た人のおかげで人口が増えた都市だと思います。以前からいらっしゃる方は地域の文化や伝統、地理的なことを知っているのでも、自分で動くことができますが、外から来た人には、結局馴染みがありません。ですので、興味を持って、誰に聞いたらよいのか分かりません。「こういうことがあるよ」とアドバルーンのように打ち上がりますが、2回、3回と継続されないのでも、知らぬ間にみんな忘れてしまいます。せっかく種を蒔いても、根づかず、もったいないと思えます。特に子どもの場合は、おじいちゃんもおばあちゃんもさいたま出身というお子さんは少ないと思えます。そうすると、子どもたちに興味を持ってもらうためには、若い人たちの感性を入れる必要があると思えます。できましたら、子どもたちはどんなことをしたいのか、お子さんの意見を聞くことをもう少し盛り込んでもらえるかと思えます。

事務局

今回の会議には間に合いませんでしたが、昨年12月に市の広聴制度を活用し、中学生から「文化芸術都市としてさいたま市が発展していくためには」というテーマで、「皆さんが興味のある文化芸術とは何か」ということなどを尋ねるアンケートを実施しました。やや難しいテーマですので、さいたま市の有名な文化芸術としてはたとえば盆栽、鉄道、岩槻の人形等があること、また、やってみた

い文化芸術としては漫画やダンスなど何でもよいことを付記しています。市内の公立中学校全校と一部の私立中学校を対象に行い、250件ほどを回収しました。結果を現在集計中です。次回の意見交換会を3月に予定していますが、そこでお示しできればと考えています。このように若い人の意見を聴取するアンケートは初めての試みで、中学生に特化したものではありませんが、集められた意見をできるだけ反映させていきたいと思っています。

委員長

いろいろな御意見がでました。ものすごく大上段に被って要約すると、2点にまとめられそうです。一つは、「連携」の重要性とでも言える事柄です。

さいたま市は大宮にしても浦和にしても与野にしても、昔は市民が積極的に文化活動をしていました。岩槻もそうでした。実は川越などもそうでしょう。

「埼玉はどういうところ?」と聞かれた時に、「文化のまち」とみんな言っていました。東京なんかには比べて文化が豊かなまちだったのですが、それは市が音頭を取ってと言うよりは、市民が主体的にやっていた文化活動の総体のことでした。市はそのような市民の文化活動を支援してくださいました。やがて1つの大きな市となり、行政がそれを取り込もうとした時に、地域事の若干の差を人々は感じるのではないのでしょうか。だから市民と行政が改めて連携していく、先ほどの委員のご指摘のようなことが進むような戦略をとる必要がある、という事に関係するお話がたくさんあったと思います。

もう一つは、ちょっとビジネスのような話になってしまいますが、「パブリックリレーションズ」を通じてアートや文化を大事にしてゆく事がさいたま市の個性を創り出す事に結びつくと言う事をどうやって市民に伝えるかということです。たとえば標語を作って、その標語をみんなで共有する。そういうようなパブリックリレーションズがあったらいいなと思います。うまい例が出てきませんが、みんなでおはようと言えば元気になる、みんなで絵を描けば元気になるというような、芸術文化活動をすることで我々は豊かになれるんだという事をパブリックリレーションズで共有するとよいと言う事に繋がるご意見が多くあったように思います。それがないと、出た意見が一発で終わってしまう、何かを伝えようとする刷り物の中に入ってこない、ということになるのではないかと、思います。皆様の今までのお話を要約すると、一つは市民と行政や、行政間の連携、もう一つはパブリックリレーションズの必要性だと思えます。

それから、④成果指標について説明がありました。これはすごく難しいので、例として横浜市、川崎市、千葉市等の例が出ていまし

た。札幌市や大阪市となると遠すぎてわからないかもしれませんが、横浜市の例というのは、皆さんにおわかりいただけるでしょう。結構一生懸命やっています。横浜市の場合は、横浜美術館の活動がすごくて、それが我々に対して様々なインパクトを与えています。それから、アウトカム型の指標で言うと、デザインという領域では金沢市の例などがあります。まちづくりにおいて、デザインの発想があると、人々が文化的であると思うんですね。そのような例として、京都市やロンドンの地域開発ではデザインという視点を活用しています。

もう1つ頭の中に置いて欲しいものとして、最近たくさんの方々が日本にやってくるのですが、みんなが富士山や京都を見たいというのは確かですが、一方で感動して帰っていくのは、渋谷駅前のスクランブル交差点と言う事は有名です。交差点を渡る人の動きが非常に綺麗だということで、交差点前のスターバックスが多くの方が押しかけます。そのようなものがおそらく、さいたま市にもあると思います。さいたま市に来た時に、「さいたまの文化は美しいね」とみんなが言ってくれる、そして、だからこの人たちはこういう活動をするんだ、それはある種のアートだよと来訪者が納得してくれる、そういう指標って何だろうと思います。ものすごく難しいのですが、2つの考え方があります。1つは 計画全体の総合指標として、文化芸術に親しめるまちであると感じることがあるかどうかを聞く。もう1つは実際のアウトプットとして、こういう数字を挙げるというやり方。定量的な成果指標は施策と効果、計画全体の総合指標は政策と市民意見というようなものです。皆さんの御意見をお願いします。

委員

私は成果指標を変更することは、良いことだと思っております。見直していくべきこともたくさんあると思いますし、来場者の数も全部合わせて積み上げていくというのは賛成です。ただ、もしよければですが、文化芸術基本法を踏まえて施策8を新規追加するように、社会包摂活動と言いますか、市民の皆さんに分け隔てなく、さいたま市としてやられるイベントを加えてはどうかと思います。

委員

定着というお話がありましたが、リピート数をどこかに入れられないでしょうか。鉄道博物館でしたら館のアンケートに来館回数を問う設問を設ける。そういう観点があると、これだけ浸透してきているという指標の一つの裏付けになるのではないかと思います。どこに入れたらいいのかはわかりませんが、「リピート数」というキーワードがどこかにあるとよいと思います。

委員長 たしか大宮盆栽美術館では来館回数をとっているような気がします。

事務局 大宮盆栽美術館の来館者アンケートでは、来館回数を調べています。

委員 リポート数があると、集客策が検討しやすくなりますし、これくらいの来館が見込めるということも言えるようになると思います。また、新規の層はどこから来ているのか分析しやすいのではないかと思います。IT企業に勤務していると分析したくなるので、データがあると検討しやすくなると思いました。

委員長 確かにリポート数を調べる必要はありますね。今では調査自体そんなに難しいことではないかと思います。

ありがとうございます。それでは、先に進めさせていただきます。議題の(2)⑤その他の課題について、説明をお願いします。

事務局 資料「2-2 本市を取り巻く文化芸術の現況を踏まえた課題への対応」を説明

委員長 それでは御意見をいただきたいと思います。課題1～5まで一遍にうかがいますが、1と2は少し前に説明をいただいたので、3～5について御意見を賜りたいと思います。

委員 課題5のアーツカウンシルの設置についてですが、これは皆さんご存じの「あいちトリエンナーレ」では、まさにこれが機能しているかどうかが問われたわけです。結果的には、県知事と名古屋市長の意見が180度違うものでした。資料に書かれているように、日本での展開には、当然、文化庁もからんでいるわけです。皆さんそれぞれの意見をお持ちでしょうが、文化庁長官は今のところは表立って一切コメントしていません。同じ学校なものですから、卒業生たちは宮田さんにネットを通じてかなり強く意見を求めたそうです。

芸術文化に対して政治が介入しないということは、言葉では簡単なことですが、現実問題として「あいちトリエンナーレ」のようなことがこれからも絶対起きると思います。韓国側の彫刻とか、天皇陛下の何かを焼いた画像を流すなど、それぞれ意見があってもいいと思いますが、ただ、文化庁は補助金を出していますし、愛知県や名古屋市も補助金を出しています。だから当然お金がからんできますし、あれだけ大きなことになってしまったということは、ある意味、良い方に考えれば、みんなが考える良い機会になったと思います。一つは先ほどから数字にこだわっていますが、「あいちトリエンナ

ーレ」にはものすごい人数が入りましたよね。あの出来事がなかったら果たしてどうか。そういう皮肉な部分もあるのですが。

何が言いたいかという、さいたま市が本当にアーツカウンシルを設置するのなら、やはり相当の覚悟を持ってやらないと、将来、いわゆる権力的なものに左右される可能性があることを、よく頭に置いて設置すべきだと思います。

委員

ここに集まっている方々は芸術に精通している方ばかりで、そういう方たちが今度の国際芸術祭に集まると思うのですが、私のような一般人には、「さいたまトリエンナーレって何？」という状態でした。というのは、2016年私は妊娠中でお産が大変だったので産後もそれどころではなく、ご飯を食べるところか睡眠さえとれない状態で、芸術なんてまったく関係ありませんでした。アンケート調査の結果として、32～41歳の茶道人口は0%ですが、なぜかと言うと、時間が無いし、芸術というのは結局お金がある人たちがやるものだと思うのです。2016年、私は仕事もしていなかったし、とても芸術に割く時間なんてありませんでした。

それから、「あいちトリエンナーレ」ですが、ずっと気になっていました。「さいたま国際芸術祭」とユーチューブで検索したらいろいろ出てきて、結局芸術をする人たちの喰いものになっているんじゃないか、という強い言葉でコメントが書かれていたりします。ユーチューブはインパクトのある面白い言葉で皮肉られていたりしますが、実際に一部の力のある人たち、お金のある人たち、頭のいい人たちの、言い方は悪いのですが「喰いもの」にされてしまうと嫌だなと思います。でも、私も漫画が好きでずっと絵を描き続けてきたので、お金もないし、インテリでもないけれど、一般の人たちがもっと国際芸術祭に来れば、それこそ利権とかの喰いものにならずに済むのではないか、いろいろな公平な意見を出し合えるのではないか、よりフラットになれるのではないかと考えています。ツイッターやInstagram、ユーチューブ等で、「さいたま国際芸術祭」を検索すると、現れるのは芸術家ばかりです。今回、この委員会に参加していたり、市の広報で気づいたから知っていますが、2016年はそんな余裕もなかったですし、一般人のなかでも比較的芸術に関心のある私でも、この情報だけではどこで何をやるのか、まったくわかりません。先ほどInstagramを拝見したら、女の子のゆるキャラがあったので、それを載せたチラシなどがあつたらよいと思います。図書館によく行くので、そういうところに置いていただきたいと思います。また、会場によっては当日券が1200円とありますが、その金額を払ってまで行きたいと思わせる何かがあるのか、チラシを見ただけではわかりません。文化芸術に興味の

ない一般の方々も読んで「さいたま国際芸術祭」を成功させるには、小学生にも浸透しているユーチューブなどで、オフィシャルに「素敵なイベントだぞ」というプレスをすることが重要だと思います。

委員

私は人形にどっぷりと浸かっておりますが、文化というのは楽しむものだと思うんです。大仰なものや、お金のかかる大掛かりなものもあるかと思いますが、若いママたちが可愛いお弁当を作り、それをインスタグラムに上げているのも、ある種の文化を楽しんでいることになると思います。人形ということでお話ししますと、人形の良いものとか、値段の違いとか、いろいろとありますが、なぜ人形を飾るのかとか、なぜこういうふうに置くのかとか話をしていくと、我々はいろいろとやらなくてはいけないものがあると思い、流しびなや人形供養祭などをやっています。定着しているので、年々来場客が増えていますが、みんながそれを目的としているわけではなく、流しびなをやっている時に同時に違うことで何か楽しんでいる人もいます。選択肢がいろいろあって、それが整理されて選べるという状況になっていると、すごく良いと思います。自分の興味あることが深く関わられるようになっていくと、より楽しいのではないかと思います。人は食べて、寝て、屋根があるところに住んで、もう最低限のことで生きていくのですが、やはり「より良く生きたい」と思うことが文化なのだと思います。その選択肢が豊富にあるとよい。今はインターネットを使って調べることができ、若い人は新聞も読まないし、テレビも見ない。いろいろと文化に関する企画等も、グーグルのワード検索でどういう言葉が上位に上がっているか調べると、一目瞭然かなという気がします。さいたま市はエリアが10個もあって広いですから、それぞれ特徴ある文化が歴史的に継承されています。それぞれのエリアの特徴が楽しめるようなさいたま市になるといいなと思います。

委員

基本計画を作られるという前提で、体系が示されているので、そこに対して、いろいろな角度からでる御意見をおまとめいただければよいと思います。

課題1についていくつかあります。まず、アンケートでなんとなく選択肢を選ぶという方法では、なかなか数字が伸びないのは致し方ないと思います。それで得た数字がゴールではなく、本当に感じるという人を増やし、それにより少しでも多くの方が来てくれて、さいたま市内にお金を落していただく、というところできていけばいいと思っています。こういったアンケートを行い、目標値を25%に揃えていくというのはすごくよいと思うのですが、なぜこの数値に10%以上届かなかったのかということはどういうことなの

か。先ほどデジタルというすごく良いお話をされていましたが、おそらくこの中にデジタルという言葉が無い時点で、違う施策を次にやっていかなければいけないのかなと思います。なので、ミレニアル世代と呼ばれる30代の方の認知がすごく低いというのは、これから10年後どうになってしまうのかなと私は見ていました。少しデジタルについて、20代や、これから10年後には20代になる小学生の皆さんについて、普段どのように接しているのか検討するとよいのではないのでしょうか。我が家でも子どもとラインで会話をしますので、プロモーションだとか、なぜ行かなかったかという点について、デジタルの観点を取り入れていくといいと思います。

副委員長

我々、さいたま芸術劇場のホールの客席数は、大ホールが776名、音楽ホールが604名と、非常に小さいホールです。ただ、非常に使う方も観る方も良かったと言ってもらえるホールなんです。演劇でいうと、大ホールでも肉声が届きますし、音楽ホールは特に音質が良く、都内で私共の劇場と同じ方がリサイタルをやると、お客様はさいたまに聴きに来ると言ってくれます。そういう特徴のあるホールなのです。ここで、大宮と浦和に新たにホールを作るというお話ですが、それ自体は良いのですが、ぜひ特徴のあるホールにして欲しいと思います。使う方にも観る方にも、何かここは売りであるというのがあるホールになるとよいと思います。都内に新しいホールができましたが、実はやるほうからすると、使い勝手が悪いと言う声も聞きます。観る方にとって素晴らしいものにするというのもあるでしょうし、やる方にとって素晴らしいものにするというのも特徴です。何かぜひ特徴があるホールができると、私共の劇場ともある種棲み分けもできます。市内に同じようなホールが複数あってもしょうがないので、うまく棲み分けができるような、特徴のあるホールにさせていただけると良いと思います。

事務局

市民会館おおみやに関しては工事が進んでいますので、新たに特徴付けるのはかなり厳しいですが、市民会館うらわについては、これから設計協議に入る段階なので、制約はいろいろありますが、できるかぎりのことをしていきたいと考えております。

委員長

ありがとうございました。この①から⑤までをまとめることはできませんが、先ほどお話のあったアーツカウンシルと芸術活動の考え方が必ずしも噛み合わず周囲の意見の対立を招いてしまう事は芸術文化においての相克の問題はどこでもついてまわります。アーツカウンシルによる活動の結果かどうかはわからないのですが、横浜市の黄金町のアートによる再開発を私はすごく気に入っていて、

歓楽街がアートのまちになり、そうすることで住む人たちにとっても、すごく良い効果がでています。私は今の立教大学に来る前は横浜商科大学にいて、黄金町というのがいかに子どもたちの人生に難しい問題として関わるかというのを見てきました。ですけれども、まちがアートにより変化することで、いろいろ な面もすごく変わったのです。活動の大部分は大学の皆さんだったりしますが、ああいう活動がさいたま市内にあっていいなと思います。ですので、そういうかたちに、もしアーツカウンシルが芸術文化活動をリード出来ればよいと思います。

それからもう一つ「観光」という観点から言うと、デジタル化が進んでいくと、人々は何が本当なのかということに興味を持つようになります。ですから、たとえば農村観光が出てきたり、手作りがもてはやされるようになります。アートやデザインもデジタル化が進むと、当然人々が注目をするものなので、そういうことにも我々の関心が行くようにリードしていく必要があると思います。おそらく人形なんかはまったくその通りだと思います。アニメが流行り、ボーカロイドが喋る時代ですが、やはり人形を抱いて寝たいと思うし、人形と一緒に遊びたいと思う。そういうリアルなものに我々がどうやって近づいていくのか、ということのアーツカウンシルがやってくれればよいなと私は思います。

事務局

今回は資料の送付が遅くなり御迷惑をおかけいたしました。時間も限られ、議題もたくさんあり、皆様から十分に御意見を尽くすことができなかつたかもしれません。お手元に御意見記入用紙を用意させていただきましたので、追加の御意見等がございましたら、お寄せいただければと思います。メールでの返信でも結構ですので、1月22日までに御返送いただければと思います。

委員長

それでは皆様の御協力をいただきまして、膨大な量の議論をすることができました。どうも御協力ありがとうございました。以上でございます。

<その他>

事務局

- ・ 本日の報酬について
- ・ 会議概要、議事録について
- ・ 会議の開催結果の公開について
- ・ 次回の開催について

